

## ビエンナーレの現在 第3週班プレレジュメ

中村・千葉・高橋

私たち第3週発表班は、第2章『パブリックアートを超えて』を扱います。この章では、新潟県による地域復興政策である「にいがた里創プラン」の一環として行われた「越後妻有トリエンナーレ」について書かれています。この国際展では、山村部での開催や、パブリックアート主体の展示方式などが特徴として挙げられています。私たちはその中からパブリックアートに特化し、私たちとアートの関わり方について考察していきたいと考えています。

そこで、みなさんに発表までに考えてきて欲しいことは、

- ①パブリックアートとしてある作品と、美術館にある作品の利点と欠点
- ②アートにとって理想的な展示方法とは、どのようなものか

の2点です。

近代美術館の多くは「壁は平面で白い箱型の建築物」、つまり「ホワイトキューブ」の形態をとっています。一方、パブリックアートは日常や社会の風景を背景に展示されています。あなたは観賞者として、それぞれのアートに対してどのように接することができるでしょうか。また、自分が展示するとしたらどの場所に、どのように展示しますか。このようなことを観点として考えてみてください。

\*パブリックアート・・・「公共芸術」という訳語の通りに、公園や市街地などの公共空間に恒久的に設置される芸術作品、あるいはその設置計画の総称。(現代美術用語辞典参照)

パブリックアート(越後妻有トリエンナーレの作品)はこちらを参考にしてください

<http://www.echigo-tsumari.jp/art/>

横浜トリエンナーレ08と比較してみるのも良いかとおもいます。